

## コラム

### 瀬田しょうこと

探してみよう、郡山から始めたいこと。

こんにちは、瀬田しょうこです。郡山生まれ郡山育ちで、安女（黎明）卒の経済学博士。日本、英国、ニュージーランドの政府・中央銀行で、市場や銀行の政策を作り運営する仕事をしています。10年以上、海外で生活していて見えてきた「あー、こんなこと郡山からできたら、カッコいいなあ」をまとめていきます。



## 第一回 郡山と日本と英国とニュージーランド

郡山の良いところって沢山あるけど、やっぱり一番は「人」だと思う。  
新しいことに興味があっぱい、面白いと思うことをやってみるのも好きだばい、それに、結構たくましいばい。

今回は、郡山の「人」という財産に、どのくらい伸びしろがあるのかを見ていきたいと思います。

伸びしろを考えるために、まず日本と英国とニュージーランドを比べてみましょう。

### 人はいるのに、活躍仕切れていない！

日本も英国もニュージーランドも島国です。

面積が一番広いのは日本。ニュージーランドは日本の約4分の3、英国は約3分の2。<sup>1</sup>

人口が一番多いのも日本。英国は日本の約2分の1、ニュージーランドは約25分の1。<sup>2</sup>

国民総生産が一番高いのも日本。英国は日本の約85%、ニュージーランドは約6%。<sup>3</sup>

ところが、人々の平均的な豊かさを表す一人当たり生産額（一人当たりGDP）を見てみると、順位は大逆転。一人当たり生産額が一番高いのは英国。ニュージーランドは英国より数パーセント低いだけでほぼ同じ。日本の一人当たり生産額は、英国やニュージーランドのたった約3分の2です。<sup>4</sup>

これは、端的に言うと「人はいるのに、十分に活躍仕切れていない」ということなのです。とってももったいない、日本の問題です。

### みんな活躍したら「今の倍」、そしてもっと

では、ここで郡山の出番です。データから、郡山の「人」という財産に、どのくらい伸びしろがあるのかを見てみましょう。伸びしろには幅があった方が良いので、郡山広域圏にも登場してもらいます。

まず、伸びしろの先にある未来の姿を描くために、東京都、英国、ニュージーランド、それぞれの一人当たり生産額と人口密度を見てみましょう（表1）<sup>5</sup>

---

#### 1 基礎データ

日本 <https://www.japan.go.jp/japan/index.html>

英国 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/uk/data.html#section1>

ニュージーランド <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nz/data.html#01>

2 世界銀行 2024 年人口データ <https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.TOTL>

3 国際通貨基金 2024 年 GDP データ <https://www.imf.org/external/datamapper/NGDPD@WEO/NZL/GBR/JPN?year=2024>

4 国際通貨基金 2024 年一人当たり GDP データ <https://www.imf.org/external/datamapper/NGDPDPC@WEO/NZL/GBR/JPN?year=2024&yaxis=lin>

5 郡山市データブック <https://www.city.koriyama.lg.jp/site/toukeikoriyama/5839.html>

表１ みんな活躍して「今の倍」、そしてもっと

	一人当たり生産 (百万円)	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
東京	7.8	6,408
英国	7.6	276
ニュージーランド	7.2	19
郡山市	4.2	428
郡山広域圏	4.0	183
(参考) 日本	4.9	331

東京と英国とニュージーランド、3つの地域ともに、人々の平均的な豊かさを表す一人当たり生産額は、約7百万円程度です。

しかし、同じ価値を作り出すのに、どれだけの人がその地域にいたのでしょうか。東京都は一平方キロメートル当たり6000人以上、英国は276人、ニュージーランドはたったの19人です。これは、「みんな活躍」できれば、たとえ人は多くなくとも、同じくらいの価値を作り出せることを示しています。

現在、郡山市には一平方メートル当たり428人、郡山広域圏には183人います。これはニュージーランドの19人より遥かに多いです。英国は、郡山市と郡山広域圏の間くらいの人口密度です。

一人当たり生産額は、郡山市、郡山広域圏ともに約4百万円程度です。これは、ニュージーランドや英国の約50%強程度の額です。つまり「人はいるのに、その約半分は、十分に活躍仕切れていない」という状況です。

「郡山には何にもないから...」と聞くときがあります。しかし、実は、結構「人」がいるのです。その人が「みんな活躍」したら、一人当たり生産額が、今の倍、更にもっと増える潜在力もあるのです。郡山の「人」という財産の伸びしろは、少なくとも今の倍は豊かになれる分もあるのです。

その上、郡山には、ニュージーランドや英国のように、街やオフィスや住宅だけではない、のびのびとした多様な地域環境も身近にあります。これは東京にはない優位性です。郡山の目指す姿は、東京である必要はありません。

伸びしろの先にある郡山、どんな未来の姿をターゲットとして据えますか？

のびのびとした環境の中で、みんなが活躍できて、豊かさを表す一人当たり生産額も高まれば、「あれ、郡山って、何だかおもしろそう」「あれ、郡山って、ワルくないかも」と、郡山に移り住んでくる人も増えるかもしれません。「人」が増えれば、更なる好循環が生まれる可能性もあります。

まとめキーワードを作るなら、「みんな活躍」「一人当たり所得↑」「人口も↑」です。

郡山広域圏構成市町村データブック

<https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/100159.pdf>

国際通貨基金為替レートアーカイブより、2022年10月の平均為替レートを使用して円建てに変換

[https://www.imf.org/external/np/fin/data/param\\_rms\\_mth.aspx](https://www.imf.org/external/np/fin/data/param_rms_mth.aspx)

東京都都民経済計算 <https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/keizaik/kk-index.htm>

## 郡山だから、ちょうどいい。郡山からできたら、かっこイイ！！

ここまで話すと、「人はいるのに、十分に活躍仕切れていない」って、日本の問題で、別に郡山に限った話じゃないよね、それに郡山から何ができるの？って思いますよね。

ごもっとも。でも、この日本の問題、とても大きすぎるんです。問題が大きすぎる時は、できる規模から、小さく始めてみるのが得策なのです。ニュージーランドの首相も「Chunk it down!」と言っています。<sup>6</sup>



もちろん、この問題は、他の地方都市からでも解決できてしまうかもしれません。でも、郡山には、新しいことに興味があって、おもしろいことも好きで、結構たくましい「人」がいます。なので、この財産を活かして、他の都市に先を越される前に、郡山から日本の問題を解決できたら、すごくかっこイイですよ。

## で、具体的に何ができる？

はい、このコラムの出番です。具体的にどうことができるのかのを考えるためのヒントとして、海外で生活しているうちに見えてきた様々な仕組みや「あー、こんなこと郡山からできたら、かっこいいなあ」を、次回からまとめていきます。

大まかに、このようなことを何回かに分けて書いていく予定です。

- 良いところを見つけて活かす仕組み
- 入口がある社会。社会全体で「会社」
- 日本一、社外取締役候補を見つけやすい市
- 仕組みを考えて、つくって改善していく仕組み
- 答えを見つけるための方法をじっくり体得する仕組み

## おまけ

もう何年も前に、英国の新聞に、もし英国人がこう言ったら実は内心こう思っている、という面白い記事がありました。例えば「That's not bad」って言ったら、それは実は「That's good」って意味、と言う感じです。実際のところは、もともと期待してたのか、そうでなかったのかによっても変わると思います。でも、「郡山ってそんなワルくないばい」って、自分たちで思えて、周りからもそう思われる街になれたら良いですね。もちろん、実の意味は「郡山ってイイばい」です。

## 他の回へのリンク

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/34/140355.html>

<sup>6</sup> <https://www.thepost.co.nz/politics/350203597/100-days-christopher-luxon-chunks-it-down>

